

2021年2月22日

報道関係各位

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
BOLDLY 株式会社

大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティプロジェクト 丸の内仲通りで自動運転モビリティの実証実験を実施

～「Smart&Walkable」な道路空間の実現に向けて歩行者とモビリティ共存の社会受容性を検証～

大手町・丸の内・有楽町地区（以下「大丸有」）まちづくり3団体^{*1}の内の、一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（以下「大丸有協議会」）と、BOLDLY 株式会社（ボードリー、以下「BOLDLY」）は、**大丸有地区におけるスマートシティのプロジェクトとして、2021年3月8日（月）から14日（日）まで丸の内仲通り（東京都千代田区）で自動運転モビリティの実証実験をします。**丸の内仲通りが歩行者専用通行時間帯となる「丸の内仲通りアーバンテラス」の実施時間中に、低速の自動運転モビリティを運行し、歩行者と自動運転モビリティが共存する環境の社会受容性を検証します。**初日となる3月8日（月）11:00～12:00（10:45 受付開始）に記者説明会を実施します。**

大丸有協議会は、2020年3月に策定した「大丸有スマートシティビジョン」において都市空間の将来像として「都市空間のリ・デザイン像」を示し、“誰もが快適かつ安全・安心に過ごす”ことができ、また“まちの魅力を連続的に体験して楽しむ”ことができる「Smart&Walkable」な道路空間の形成に取り組んでいます。

このたびの実証実験は、この取り組みの一環として、BOLDLY と共同で実施するもので、自動運転モビリティへの約500人の試乗を見込んでいます。また、大丸有地区のワーカーを中心に、「どのような場面において自動運転モビリティを利用したいと思うか」や「歩行者と至近距離で移動する自動運転モビリティに親近感を感じるか」などのアンケートを実施して、社会受容性の検証に活用します。なお、実証実験では、大丸有スマートシティとして構築する都市OS（データ連携基盤）の活用により、大丸有地区を巡回するバス「丸の内シャトル」と自動運転モビリティの位置情報をリアルタイムで確認できるスマートフォンアプリを提供し、快適な移動体験の創出に役立つかを検証します。



丸の内仲通りを走行する自動運転モビリティの様子（準備走行時）



「Smart&Walkable」な道路空間のイメージ

本実証実験は東京都、千代田区および大丸有協議会で構成される大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアムが国土交通省の「スマートシティモデル事業」に応募し、2020年度の支援対象に先行モデルプロジェクトとして選定されて実施するものです。

^{*1} 「一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（大丸有協議会）、NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツエリア協会）」の3団体は連携して大丸有地区のまちづくりを推進しています。

実証実験 実施概要

期 間：2021年3月8日（月）～14日（日） <平日> 11:00～15:00 <土日> 11:00～17:00

走行ルート：丸の内仲通り（丸の内ビルディング前～丸の内パークビルディング前の往復約 700m）

試乗人数：約 500 人（周辺のワーカー：約 300 人／一般：約 200 人）

* 試乗には、以下のウェブサイトでの申し込み、または当日に現地での登録が必要です。

<https://autonomous-bus-nakadori.peatix.com>

* 乗客の定員が9人の自動運転モビリティに、1便（片道）当たり6人が試乗可能です。

走行便数：合計 82 便（平日 10 便／土日 16 便）

走行速度：時速 6km 以下

役割分担：<大丸有協議会> 全体統括

<BOLDLY> 自動運転モビリティの運行・遠隔監視、ルートや車両、センサーの設定など

備 考：・安全対策のため、車両から音楽を流し、周囲の歩行者に車両の接近を知らせます。

・新型コロナウイルス感染症の対策として、乗客の検温および手指の消毒を実施します。

自動運転モビリティの走行ルート・運行スケジュール

【走行ルート】

- ★ …乗降車場
- ☆ …降車場



【運行スケジュール】 試乗時間：10分（片道）

<丸の内ビルディング→丸の内パークビルディング>

バス停北(丸ビル前)		
時間	平日	土日
11	30	30
12	10 50	10 50
13	30	30
14	10	10 50
15		30
16		10

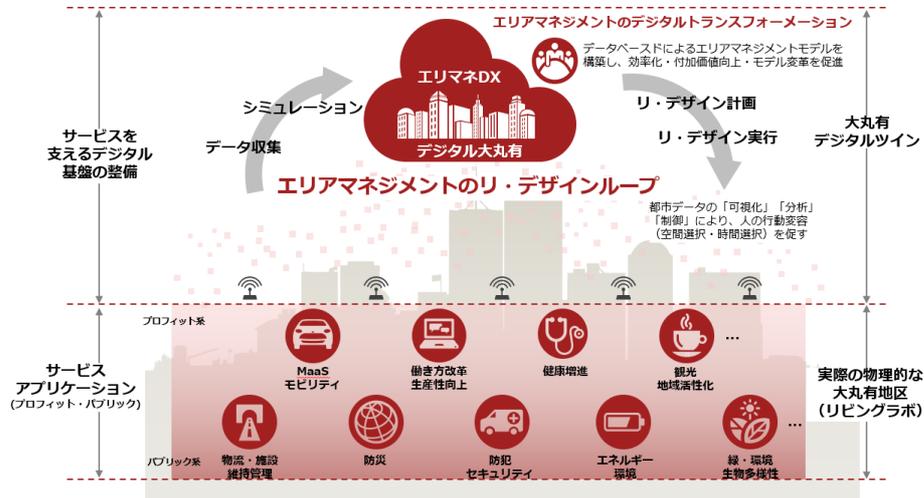
<丸の内パークビルディング→丸の内ビルディング>

バス停南(丸の内パークビル前)		
時間	平日	土日
11	50	50
12	30	30
13	10 50	10 50
14	30	30
15		10 50
16		30

「大丸有スマートシティビジョン」とは

「大丸有スマートシティビジョン」では、大丸有地区の「まちづくりガイドライン」に示された「まちづくりの目標像」を実現するために、**ビジョンオリエンテッド**※2のスマートシティ化を掲げています。スマートシティ化をまちづくりの目標を達成するための手段として捉え、新たな技術や都市のデータを活用して、都市機能のアップデートと都市空間のリ・デザインを実現していきます。

大丸有スマートシティのプロジェクトでは、「**データ利活用型エリアマネジメントモデル**」を確立し、他地区への横展開を目指します。また、デジタルと都市を高度に融合し、都市のリアルタイムデータを収集することで、データに基づいた意思決定を行う「**エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション（DX）モデル**」も確立します。これにより都市の状況をリアルタイムに可視化・分析し、シミュレーションなどをすることが可能になり、まちの「**創造性・快適性・効率性**」が飛躍的に向上し、価値が増大します。

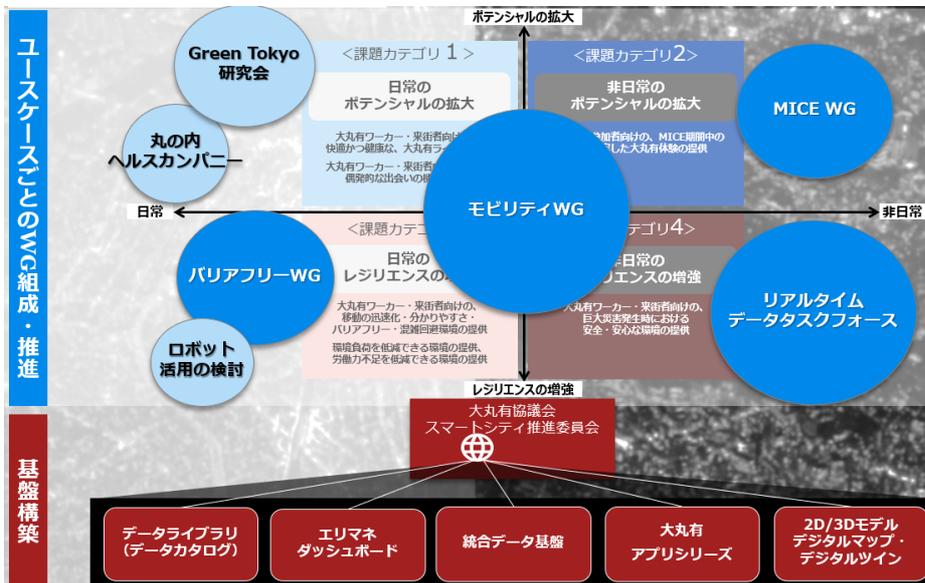


※2 「ビジョンオリエンテッド」とは、ビジョンを最重要テーマと捉えるアプローチ

「大丸有スマートシティビジョン」に基づくプロジェクトの活動ポイント

大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアムが2020年3月25日に「大丸有スマートシティビジョン」を策定し、大丸有地区の日常・非日常におけるポテンシャルの拡大・レジリエンスの増強を宣言しました。大丸有地区におけるスマートシティのプロジェクトは、2019年5月に国土交通省による「スマートシティモデル事業」の先行プロジェクトに、2020年7月に東京都の「スマート東京（東京版 Society5.0）の実現に向けた先行実施エリアプロジェクト」に採択されており、日常・非日常におけるポテンシャルの拡大・レジリエンスの増強という観点で、「大丸有地区の発展的課題」を設定してプロジェクトを推進しています。大丸有地区ではこれらの課題解決に向けて、都市機能をアップデートするサービスの創出と都市空間のリ・デザインに取り組んでいます。なお、このたびの実証実験は、大丸有協議会のモビリティワーキンググループの取り組みの一環です。実証実験を通して得られるデータや検証結果から、異なるモビリティ間のサービス連携の在り方や、新たなモビリティを受け入れる都市のリ・デザインの在り方を検討します。

大丸有地区では、スマートシティの先導地区として、他地区を含めたスマートシティの発展に貢献するため、今後もさまざまな活動を実施します。

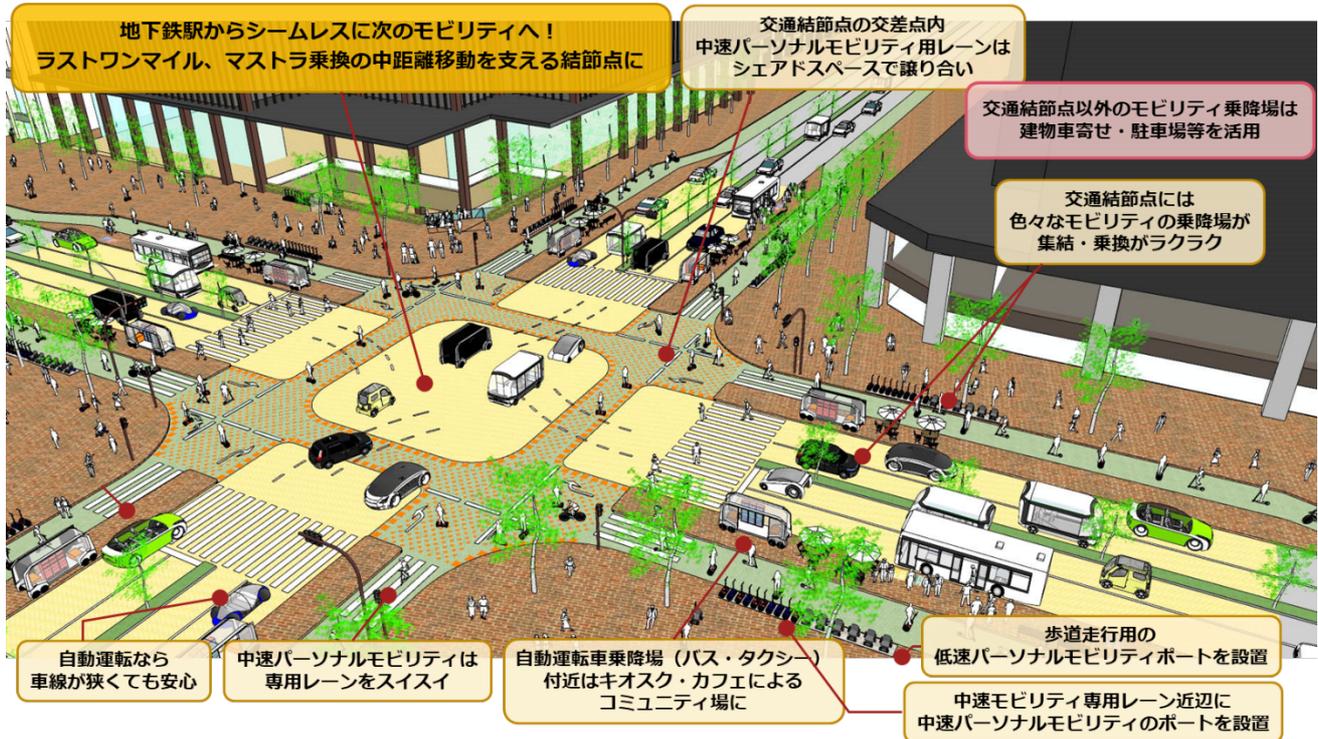


▲活動のポイント

都市空間のリ・デザインのコンセプト

大丸有地区では、新しい技術に対応した便利で快適なまちを実現するため、都市から収集したデータを基にしたシミュレーションなどを行い、都市空間のリ・デザインに向けて取り組んでいます。そのコンセプトとして「Smart & Walkable」を掲げ、誰もが快適かつ安全に、また安心して移動を楽しむことができるまちづくりを目指すと同時に、他地区との連携により人と人との交流や出会いが拡大するまちにすることを目指します。

「Smart & Walkable」をコンセプトにした空間では、歩行者やベンチなどでつろぐ人々と多様なモビリティが共存することを想定しており、歩車共存に適したグリーンスローモビリティの導入などを検討しています。また、交通結節点（駅の出入口など）に、モビリティの乗降場を設置し、異なるモビリティ間でシームレスな乗り換えを可能とする他、モビリティの専用レーンを設けることで、域内外への迅速な移動を可能にすることを検討しています。今後も実証実験やシミュレーションを通して、「Smart & Walkable」な都市空間の実現に向けた取り組みを進めていきます。



【ご参考】



丸の内仲通りを走行する自動運転モビリティの様子（準備走行時）



実証実験アプリを活用した位置情報が取得可能に
※アプリケーション開発中画面となり、実物と異なる場合がございます。